

科学者と信仰

○ヨハネス・ケプラー (1571~1630)



ドイツの天文学者。天体の運行法則に関する「ケプラーの法則」を唱える。天体物理学者の先駆

「神は偉大だ。その能力は計りがたく、その知恵は無限。天と地、太陽と月と星は、それぞれ自分の言葉で神を称えよ。私の主、私の造り主よ、私はこの限られた知性で理解できる範囲で、御身の御業の偉大さを人々に伝えたい」

○ニコラス・コペルニクス (1473~1543)



ポーランド人カトリック司祭。地動説を提唱。

「最も完璧な秩序と神の知恵を熟知する者で、最も崇高な野心に駆り立てられない者がいるだろうか。これらすべてのこと的设计者を賛美しない者がいるだろうか」

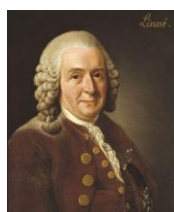
○アイザック・ニュートン (1643~1727)



古典力学や近代物理学の祖。

「我々が知っていることはほんの小さな一滴に過ぎない。他方、我々が知るに至っていないことは大海である。この宇宙の感嘆すべき配置と調和は、全知全能の存在から出たとしか考えられない」

○カール・フォン・リンネ (1707~1778)



スウェーデンの植物学者、「分類学の父」と言われる。

「私は全知全能、永遠で無限の神が近くをお通りになるのを見た。そこで私は膝を折って礼拝した」

○アレッシェンドロ・ヴォルタ (1745~1827)



イタリアの自然哲学者（物理学者）。電池（ボルタ電池）を発明した。

「私は聖なるローマカトリックの信仰を告白する。私はこの信仰を与えてくださった神に感謝し、最期の瞬間までこの信仰をもって生きようと固く決心している」

○アンドレ・マリ・アンペール (1775~1836)



フランスの物理学者。「アンペールの法則」を発見。

「神のなんと大きいこと。私たちの科学のなんと小さいことか」

○オーギュスタン・ルイ・コーシー (1789~1857)



フランスの数学者。解析学の分野に対する多大な貢献から「フランスのガウス」と呼ばれることもある。他に天文学、光学、流体力学などへの貢献も多い。

「私はキリスト信者である。つまり、過去に出たすべての偉大な天文学者、すべての偉大な数学者と同じく、キリストが神であると信じている」

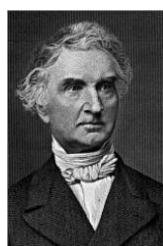
○ヨハン・カール・フリードリッヒ・ガウス (1777~1855)



ドイツの数学者、天文学者、物理学者。その研究は広範囲に及んでおり、特に近代数学のほとんどの分野に影響を与えたと考えられている。数学や磁気学の各分野に彼の名前がついた法則、手法が数多く存在する。

「人生の最後の時の鐘が鳴り、この世の現実の中にもうっすらとしか見えなかったお方が目の前にはっきりお現れになるとき、私たちの喜びはいかばかりだろうか」

○ユストゥス・フォン・リービッヒ (1803~73)



ドイツの化学者。有機化合物の定量分析法を考案し、基(き)の理論の発展に寄与。生化学では動植物の栄養を研究し、人工肥料を作った。

「神の無限の偉大さと知恵は、自然と呼ばれる偉大な書物をもって学ぼうと努める者だけが認めることができるだろう」

○ユリウス・ロベルト・フォン・マイヤー (1814~78)。



ドイツの物理学者。熱と仕事が相互に変換可能であること、エネルギー保存の法則を発見した。

「私は一つの確信とともに今この世の生を終わろうとしている。その確信とは、真の科学と真の哲学はキリスト教に導く門以外のなにものでもないということだ」

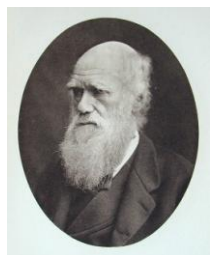
○アンジェロ・セッキ (1803~95)



イタリアの天文学者にしてイエズス会士。イギリスのストーンハース天文台やアメリカのジョージタウン大学で働き、1850年からはバチカン天文台の所長。湖や海の透明度を測定する道具を開発し、これはセッキ板と呼ばれる。月のクレーターや山にセッキの名前が付けられた。

「天を眺めるのと神を知るのとは、ほんの短い距離しかない」

○チャールズ・ダーウィン (1809~82)



イギリスの自然学者。進化論の提唱者

「私は神の存在を否定したことは一度もない。進化論と神への信仰は何の問題もなく両立すると考える。神の存在を示す最良の証明は、この巨大な宇宙と人間が偶然の産物であると証明できないという事実だと思う」

○エルヴェ・フェイ (1814~1902)



フランスの天文学者。1843年に周期彗星4P/フェイを発見した。

「科学の進歩によって神の存在が否定されたというのは嘘である。この嘘は過去の体制を滅ぼそうとする戦いの時代に起こる。・・・その一つは、1794年5月7日のフランス革命政府が最高存在の存在を宣言した投票である」

○トーマス・エジソン (1847~1931)



「発明王」と呼ばれるアメリカ合衆国の発明家。生涯におよそ1300もの発明を行った。

「私は、すべての発明家に対し、なかでも最大の発明家である神に、これ以上ない尊敬と感嘆の情を捧げたい」

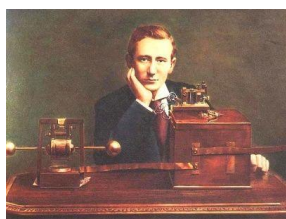
○カール・ルドビヒ・シュライヒ (1859~1922)



ドイツの外科医。局部麻酔を発見。

「私は顕微鏡を通して自然界を観察することによって私なりに神への信仰に至った。私は自分の能力の限り、科学と宗教の間に完全な調和があるように貢献したい」

○グリエルモ・マルコーニ (1874~1937)



イタリアの無線研究家、発明家。無線電信の開発で知られている。1909年、ノーベル物理学賞受賞。

「私は神を信じる。このことを誇りをもって宣言する。私は祈りの力を信じる。カトリック信者としてだけでなく科学者としても神を信じている」

○ロバート・ミリカン (1868~1953)



アメリカ合衆国の物理学者。1923年、電気素量の計測と光電効果の研究によりノーベル物理学賞を受賞した。

「私は信仰を否定することはまったく科学的根拠がないことを躊躇することなく宣言する。私の判断によれば、信仰と科学の間に決して矛盾は見つからない」

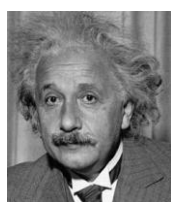
○アーサー・エディントン (1882~1946)



イギリスの天文学者。20世紀前半における最も重要な天文学者の一人。コンパクトな天体に降着する物質から放射される光度の上限を与えるエディントン限界の導出は彼の代表的な業績の一つ。

「無神論を主張する者は誰も、自然科学者として神がないという結論を出したのではない。彼らはみんな二流の哲学者である」

○アルベルト・アインシュタイン (1879~1955)



20世紀最大の物理学者とも現代物理学の父。1921年、ノーベル物理学賞を受賞。

「科学にまじめに取り組むものは、一人残らず、この宇宙のあらゆる法則の中に、その前では我々は跪くしかない、人間を無限に超えた精神が現れていることを確信するだろう」

○マックス・プランク (1858~1947)



ドイツの物理学者で量子論の創始者の一人である。「量子論の父」とも呼ばれている。1918年、ノーベル物理学賞受賞

「この宇宙の秩序と宗教の神を互いに結び付けることを否定させるものは何もない。我々の知識がそれを要求する。神は、信じる者にとっては、出発点であり、物理学者にとっては到着点である」 「不幸における私の最大の助けは、幼いときから私にしっかりと根づいた、全知全善の神への不屈の信仰であった。宗教と科学は、今日多くの人が考え、恐れているように、互いに矛盾しているのではない。むしろ相互に補っているのである」(ガエタノ・コンプリ、『人間を考える』445頁より引用)。

○エルヴィン・シュレディンガー（1887～1961）



オーストリアの理論物理学者。波動形式の量子力学である「波動力学」を構築した。1933年、ノーベル物理学賞受賞。

「量子力学の原理に従えば、最も繊細な作品は神によって創造された大自然である」

○ハワード・エイケン（1900～1973）



アメリカ合衆国の物理学者でコンピューティングのパイオニアである。IBMによって建造された Harvard mark-I コンピューターのプロジェクトで主任エンジニアを勤めた。

「近代物理学は、大自然は自分で自分を秩序づけることができないことを教えてくれる。宇宙は秩序だった巨大な質量を前提とする。それゆえ、巨大な「第一原因」の存在を必要とする。その第一原因は、熱力学第二法則には縛られない、それゆえ超自然の存在である」

○ヴェルナー・フォン・ブラウン（1912～1977）



科学者にしてロケット技術開発の初期における最重要指導者の一人。ドイツ人だが第二次世界大戦後に合衆国に移住し、研究活動を行った。

「すべての存在の上に、栄光の神が輝いている。それは、人間と科学が礼拝の心をもって日々その神秘に分け入っているこの偉大な宇宙を創造した神である」

○チャールズ・タウンズ（1915～）



アメリカ合衆国の物理学者。誘導放出による電磁波の増幅（メーザー、レーザー）の基本原理を発明した。1964年、ノーベル物理学賞受賞。

「私は宗教者として、創造主の介入を感じる。創造主は、私を超えたところにおられるが、いつも私のそばにおられる・・・宇宙の法則の創造は、それを作った知性を要求する」

○アラン・サンデージ（1926～2010）



アメリカ合衆国の天文学者。ハッブル定数などの研究を行った。1952年からパロマー天文台、ウィルソン天文台でエドウィン・ハッブルのもとで働き、後にカーネギー天文台で働く。

「私は子供の時は無神論だった。しかし、科学のお陰で、この世界は私たちが説明できるものよりもはるかに複雑であるという結論に達した。存在の不思議は、超自然の存在がなければ説明できない」

○ジャン・アンリー・ファーブル（1823～1910）



フランスの生物学者。昆虫の行動研究の先駆者であり、研究成果をまとめた『昆虫記』で有名。

「昆虫の驚くべき本能の世界を見て、そこに偶然の一致しか見ないようにしようとしても無駄である。このような調和は偶然では説明されない。世界は一つの無限の知恵によって導かれている。私は、観察すればするほど、物の神秘の」の背後に輝くこの知恵を、いっそうよく見るようになった。そのために、人が私を嘲笑することも知っている。しかし、そんなことはとるに足らない。私から信仰をもぎ取るよりは皮膚の皮を剥ぎ取る方がたやすいかも知れない。私は神を信じるのではない。神を見ているのだ」（ガエタノ・コンプリ、『人間を考える』、445頁から引用）。

○ルイ・パスツール（1822～1895）



フランスの生化学者、細菌学者。牛乳などの腐敗を防ぐ殺菌法、ワクチンの予防接種の方法を開発。

「私はあなたに言うが、私はある程度の知識があるので、ブルターニュ人の男のように信じる。しかし、もしもっと知識が多ければ、ブルターニュ人の女のように信じることだろう」

（注、ブルターニュ人は、フランスの中でもカトリック信仰の強い地方）

*ある逸話

大学生が汽車で旅行をしていた。隣の席には上品な老人がロザリオを唱えていた。それに気づいた若者は大胆にも老人にこう言った。

「どうしてロザリオを唱える代わりに、もっとためになる勉強をしないのですか。よろしければ、あなたのためになりそうな本をお送りしますが」と。

老人は「ありがとう。では私の住所にその本を送って頂ければうれしいです」と答えて、彼に名刺を手渡した。それにはこう書いてあった。「ルイ・パスツール。パリ科学研究所」。大学生は赤面した。当時最も高名な科学者に助言を与えようとしたのだから。その人は、ワクチンの発明者、世界に名だたる学者で、ロザリオの祈りに熱心な人であった。

参考

(<http://www.slideshare.net/mpolanco/confesin-de-fe-de-grandes-cientificos-3228586>)

(<http://www.erain.es/departamentos/religion/SUBPAG/HISTORIA/cientificos/index.htm>)

ガエタノ・コンプリ、『人間を考える』、ドンボスコ社